環境活動レポート

2015

平成28年 11月発行

第12版：平成27年3月～平成28年2月実績

Eco & Communication

㈱グリーンロジスティクス

e-style camp

環 境 方 針

基 本 理 念

株式会社　グリーンロジスティクスは、廃棄物の中間処理・収集運搬業務を通じて、人と環境が調和し、共存できる循環型社会への構築に向けての地域環境保全に努めます。

行 動 指 針

1. 環境負荷の低減を目指し、重要項目として下記の項目に重点を置き、計画的・継続的・効果的な CO2 削減活動を行います。
   - ① 収集運搬車両及び重機等による燃料使用量の削減。
   - ② 産業廃棄物リサイクル率の向上。
   - ③ 水光熱使用量の削減。
   - ④ バイオディーゼル燃料（BDF）の普及。
   - ⑤ 再生可能エネルギーの生産・供給。
   - ⑥ グリーン商品の積極的購入及び資源の有効活用。

2. 全社員が、地域社会における役割と責任を認識し、地域融和活動に努めます。
   - ① 第一に私達は、地域社会の一員であることを自覚します。そして、地域に対して「役立ちたい」というもっとも高い価値観を共有します。
   - ② 地域の企業・環境団体や行政との連携を深く図り、地域が参加できる環境保全活動を企画・実践します。そして、知識・情報を共有し環境ネットワークづくりに努め、地域社会にも広く発信します。

3. 環境関連法規・条例・要綱及び全ての要求事項を遵守します。

4. あらゆる人に環境レポートを公開し、地域環境コミュニケーションの形成のための協力と理解を求めます。

制定日　平成 17 年 5 月 1 日
最終改訂日　平成 27 年 5 月 1 日

株式会社　グリーンロジスティクス
代表取締役　岩崎　浩

事 業 概 要 1

◆事業名称及び代表者名

株式会社　グリーンロジスティクス　代表取締役　岩崎　浩

◆所在地

◇管理事務所・選別棟　　熊本県菊池郡大津町杉水 2506 番地

◇圧縮・破砕棟　　熊本県菊池郡大津町杉水 2509 番地 1

◆資本金

1000 万円

◆設立

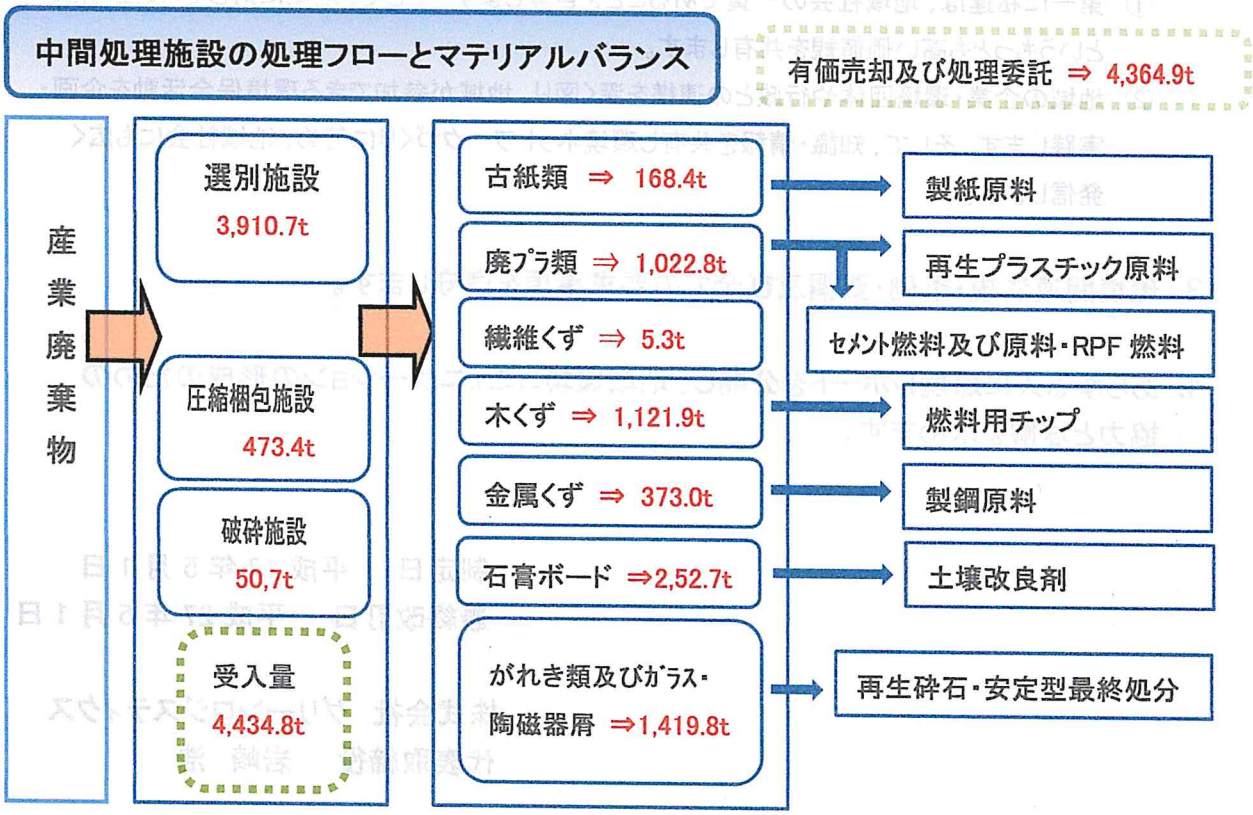
平成 4 年 12 月 21 日

◆事業内容

◇産業廃棄物の中間処理(選別・破砕・圧縮)及び収集運搬

◇一般廃棄物の収集運搬

◇有価物(古紙・再生樹脂)の回収・加工・販売



事業概要2

◆許可内容

NO	許可の種類	自治体	許可番号	許可年月日	有効年月日
1	一般廃棄物収集運搬業	大津町	第 10 号	H28.4.1	H30.3.31
2		菊池市	菊市環許第 8 号	H27.4.1	H29.3.31
3		合志市	合志市令第 10 号	H27.4.1	H29.3.31
4		菊陽町	指令環第 632 号	H28.4.1	H30.3.31
5		熊本市	第 13R-83 号	H27.4.1	H29.3.31
6		益城町	第 14-8 号	H28.4.1	H30.3.31
7		西原村	5012 号	H27.4.1	H29.3.31
8	産業廃棄物収集運搬業	熊本県	第 04300008464 号	H27.9.15	H34.9.8
9	産業廃棄物処分業		第 04320008464 号	H21.9.30	H28.9.29

※2013.5.16 に熊本県より「優良産廃処理業者」に認定を受けました。

◆産業廃棄物処分業（熊本県）

◇事業の全体計画

排出事業所から排出された産業廃棄物を搬入し、計量後、処理前保管場所にて保管する。その後、機械選別ライン・破砕機・圧縮梱包機にて、それぞれ処理を行う。
その後は、処理後保管場所に保管し、有償売却、又は処理委託する。

◇処分する産業廃棄物の種類等

（選別）廃プラスチック類 81t/月・木くず 65t/月・金属くず 3t/月・がれき類 10t/月・紙くず 3t/月・繊維くず 0.5t/月・ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず 10t/月・ゴムくず 0.1t/月

（破砕・圧縮梱包）廃プラスチック類 50t/月・金属くず 3t/月・紙くず 5t/月・繊維くず 0.5t/月

◆産業廃棄物収集運搬業（熊本県）

◇事業の全体計画

排出事業者から収集運搬の委託を受けた産業廃棄物の自社中間処理施設をはじめ、他の処理施設に運搬する。

◇収集運搬する産業廃棄物の種類等

①廃プラスチック類・木くず・金属くず・紙くず・繊維くず・ゴムくず⇒225t/月
②ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず⇒20t/月
③がれき類⇒40t/月
④動植物性残渣 45t/月
⑤燃え殻・ばいじん 1t/月

事 業 概 要3

◆施設等の状況

◇運搬車両の種類と台数

・8tクラム車 1 台・4tフックロール車 2 台・4tユニック車 1 台・3tユニック車 1 台
・2tダンプ車 1 台・4tパッカー車 8 台・2tパッカー車 1 台・軽トラック 2 台
合計　　17 台

◆施設の種類と処理する廃棄物の種類、処理能力他

◇選別施設

・処理する産業廃棄物の種類
廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類・木屑・金属屑・がれき類・紙屑・繊維屑・ｶﾞﾗｽ屑・ｺﾝｸﾘｰﾄ屑及び陶磁器屑・ゴム屑
・処理能力　15t／日(8h)
・処理方式　手選別及び機械選別ライン

◇破砕施設

・処理する産業廃棄物の種類
廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類
・処理能力　4.7t／日(8h)
・処理方式　破砕機

◇圧縮・梱包①施設

・処理する産業廃棄物の種類
廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類・金属屑・紙屑・繊維屑
・処理能力　廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類 41.5t/日・金属屑 88.5t/日・紙屑 63.4t/　日・繊維屑 44.2t/日(8h)
・処理方式　圧縮梱包機

◇圧縮・梱包②施設

・処理する産業廃棄物の種類
廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類・金属屑・紙屑
・処理能力　廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類 3.4t/日・金属屑 10.8t/日・紙屑 2.9t/日(8h)
・処理方式　圧縮梱包機

◆会計年度及び環境年度

毎年3月1日から翌年2月末日

◆情報公開

◇(株)グリーンロジスティクス　ホームページ ⇒ http:// greenlogistics.co.jp/
◇産廃情報ネット情報開示システム ⇒ http://www2.sanpainet.or.jp/zyohou/

事 業 概 要 4

◆事業の規模

活動規模		単位	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
売上高		百万円	226	275	300	319	338	360	381
廃棄物取扱量（有価物含）	収集運搬	t	8,849	10,053	10,527	12,162	12,947	13,215	13,137
	中間処理	t	2,208	4,873	5,311	6,688	6,684	6,786	7,489
従業員数		人/年	18	21	22	26	27	30	33
敷地面積		㎡	2,193	4,999	4,999	4,999	4,999	4,999	4,999
車両台数		台	17	17	18	17	18	17	17

環境マネジメントシステム

エコアクション 21 組織図

代表取締役　岩崎　浩

環境管理責任者　岡野　宏則

環　境　管　理　委　員　会

施設　五島　仁司	車両　岩下　正和	事務所　出口　こずえ
◆廃棄物リサイクル率の向上 ◆水道使用量の削減 ◆電気使用量の削減	◆車両整備及び管理 ◆燃料使用量の削減 ◆バイオディーゼル燃料の普及	◆電気・ガス・水道・灯油の削減 ◆事務所廃棄物の削減 ◆グリーン購入の推進

◇各部門に推進担当者を配置し、運用しています。

☆環境管理責任者の連絡先　(096)293-0743

環境数値目標と実績及び評価

弊社の業務は、一般廃棄物の収集運搬、産業廃棄物の収集運搬及び中間処理（選別・圧縮・破砕）及び再生資源の加工・販売であり、環境目標を下表のように設定した。

◆①総エネルギー投入量及び⑤二酸化炭素排出量は、収集運搬車両及び重機の稼動による軽油の割合が高く、業務の量によって変動するため、売上百万円当りの量で環境目標を設定した。

（評価）中間処理取扱量の増加に伴い、化石燃料使用量が増加し、その結果、総エネルギー投入量は、目標を達成できなかった。二酸化炭素排出量については、電力排出係数を今年度から新数値を採用したことも関係するが、目標を達成することができた。

◆②購入電力及び⑥太陽光発電量は、購入電力との比較ができるよう太陽光発電量の目標を設定した。

（評価）太陽光発電量は前年度と比較すると▲3.5%減少したが、購入電力は環境目標を達成できた。

◆事務所における⑧廃棄物排出量⑨グリーン購入は、事務所の拡張等の計画はないが、従業員増員のため、今年度より一人当たりの廃物排出量で環境目標を設定した。

（評価）一人当たりの廃棄物排出量が増加し、目標を達成できなかったが、事務用品等のグリーン購入の目標は上回ることができた。

◆また、当社の業務は廃棄物の収集運搬及び中間処理業なので、中間処理業で取り扱う廃棄物に係る環境目標を、⑩リサイクル率で設定した。

（評価）前年度に比べ再資源化できないガラス陶磁器屑が約140t増加した為に環境目標を達成できなかった。

	NO	項目	単位	H27 年度		評価	H28	H29	H30
				目標	実績		目標	目標	目標
インプット	①	総エネルギー投入量	MJ/百万円	12,900	12,970	△	12,900	12,800	12,700
	②	購入電力	kwh	47,250	45,989	○	47,200	47,150	47,100
	③	化石燃料使用量	L	107,500	109,152	×	107,500	107,000	106,500
	④	水資源使用量	㎥	1,120	1,082	○	1,110	1,105	1,100
アウトプット	⑤	二酸化炭素排出量	kg-Co2/百万円	890	813	○	880	870	860
	⑥	太陽光発電量	kwh	91,000	87,849	△	87,800	87,800	87,800
	⑦	BDF 使用量	L	10,500	10,996	○	9,000	5000	5,000
	⑧	廃棄物総排出量(事務所)	Kg/人	8	10	×	10	10	10
	⑨	グリーン購入(事務備品)	%	65	78	○	75	75	75
	⑩	リサイクル率	%	82	78.9	×	78	78	78

※今年度より九州電力実排出係数 0.509 を採用。

環境活動計画の取組み結果とその評価、次年度の取組み内容(施設)

◆電力使用量の削減と太陽光発電

◇機械選別ライン・圧縮機・破砕機・減容機の省電力による効果的な運転を行う。(評価○)
次年度⇒継続的に行なう

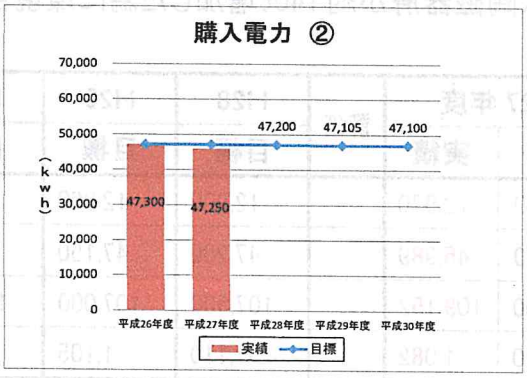
◇事務所棟、選別棟、圧縮・破砕棟に設置した太陽光発電システム(84kw)とバイオディーゼル燃料を含めた再生可能エネルギーの生産量を高めていく。(評価△)
今年度、電力使用量 45,989kwh に対し、太陽光発電量 87,849kwh
次年度⇒バイオディーゼル燃料以外の再生エネルギーについては継続的に高めていく

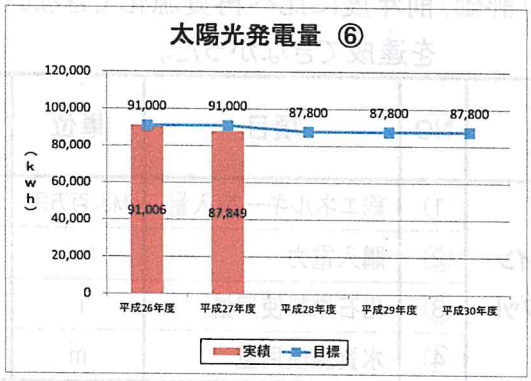
◆水資源投入量の削減

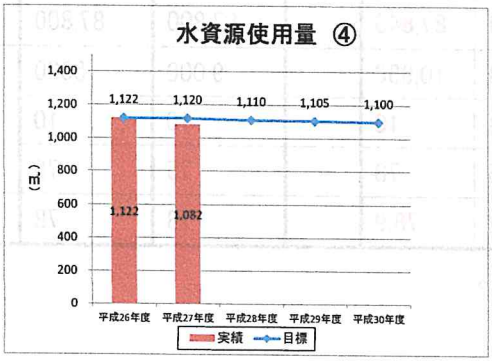
◇運搬車両の洗車使用量が主である為、前年同様節水効果などある洗車機の使用とホースにストッパーを付け、使用量を抑える。(評価○)次年度⇒継続的に行なう

◇洗車場など水廻りの漏水点検及び補修の実施。(評価○) 次年度⇒継続的に行なう

評価基準(○‥良く取り組んでいる △‥取り組んでいる ×‥全く取り組んでいない)







環境活動計画の取組み結果とその評価、次年度の取組み内容(施設)

◆リサイクル率の向上

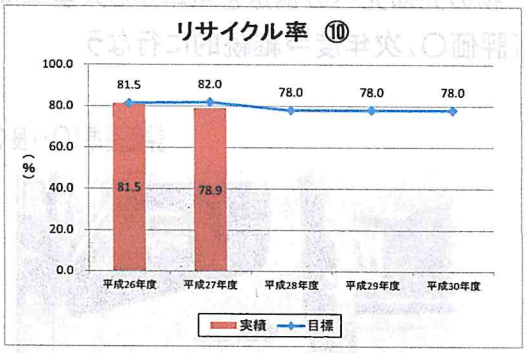
◇圧縮機・破砕機・機械選別ラインをリサイクル率向上に効果的な選別・加工を行い、付加価値を高めた再資源化を行う。(評価○)次年度⇒継続的に行なう

◇発泡樹脂の減容機を生産能力の高い機械に入れ替え、マテリアルリサイクルの取扱量を増やす。(評価○)次年度⇒継続的に行なう

◇排出事業者に対し、再資源化に必要な廃棄物の保管方法等の提案を行う。(評価○)次年度⇒継続的に行なう

◇社内において廃棄物の分別及びリサイクル研修の実施。(評価○)次年度⇒継続的に行なう

評価基準(○‥良く取り組んでいる　△‥取り組んでいる　×‥全く取り組んでいない)



環境活動計画の取組み結果とその評価、次年度の取組み内容(車両)

◆燃料使用量の削減及び車両・重機等のメンテナンス

◇収集運搬車輌及び重機類に、バイオディーゼル燃料を使用(*注1)し、二酸化炭素排出量を削減する。今年度　バイオディーゼル燃料精製量 18,576　L 、使用量　10,996L

(評価△)次年度⇒使用量については継続的に行なうがバイオディーゼル燃料使用量については今後の課題となる。(P16 次年度の見直し 2 に記載)

◇収集運搬時は、エコドライブを基本とし急加速・急発進せず、無駄なアイドリングをしない。また、安全及びエコドライブ講習会及び車両+重機類のメンテナンス向上などさまざまな講習会を実施。(評価〇)次年度⇒継続的に行なう

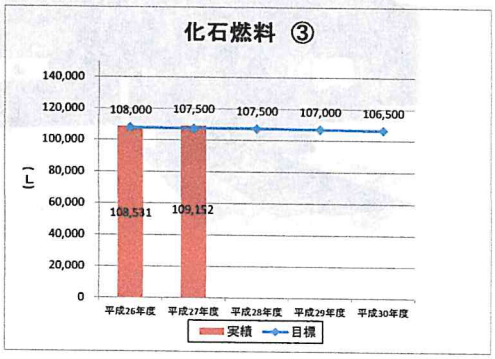
◇計量器による積載量のチェックにより、過積載をなくし燃費向上に努める。

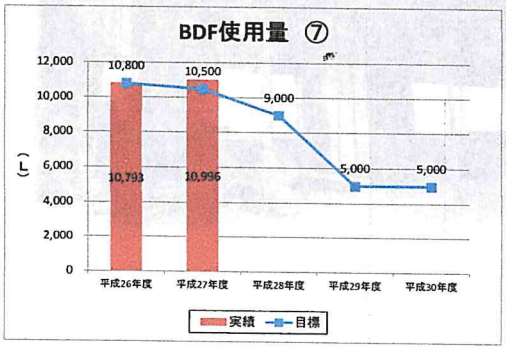
(評価〇)次年度⇒継続的に行なう

◇中間処理後の廃棄物及び有価物を圧縮・破砕加工することはもちろん、処理委託先及び有価物の売却先への輸送を 4t車から大型車両に変更することで、燃料使用量を削減する。

(評価〇)次年度⇒継続的に行なう

評価基準(〇‥良く取り組んでいる　△‥取り組んでいる　x‥全く取り組んでいない)





(＊注1)

グリーンパートナー(有)百式の BDF 精製工程の中で使用する化学物質については、パートナー企業同士で適切な管理を行う。

環境活動計画の取組み結果とその評価、次年度の取組み内容(事務所)

◆電気・ガス・灯油使用量の削減

◇こまめな電源スイッチの入切を徹底する。(評価○)次年度⇒継続的に行なう

◇エアコンの設定温度を、室内温度が夏は28℃、冬は22℃とし、冬季のエアコンの使用は原則せず、ヒーター等で代用する。(評価○)次年度⇒継続的に行なう

◇COOL-BIZ 及び WARN-BIZ の推奨。(評価○)次年度⇒継続的に行なう

◆廃棄物の削減

◇3R(リサイクル・リユース・リデュース)を基本とし可燃物・古紙・ダンボール・ビン缶・ペットと分別を徹底し減量化を進める。(評価△)次年度⇒また今年度より廃棄物排出量の目標設定を1人当たりの排出量に変更したが、達成出来なかった。

◇容器包装プラスチック類の分別を徹底する。(評価○)次年度⇒継続的に行なう

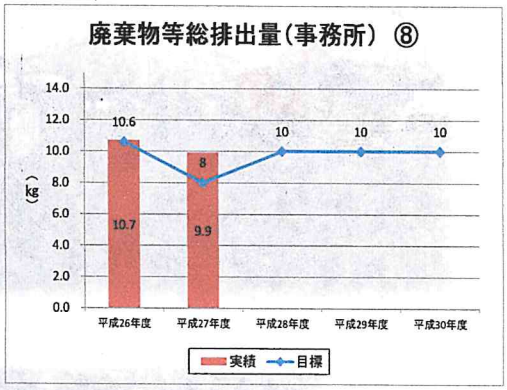
◇紙シュレッダーの分別をする。(評価○)次年度⇒継続的に行なう

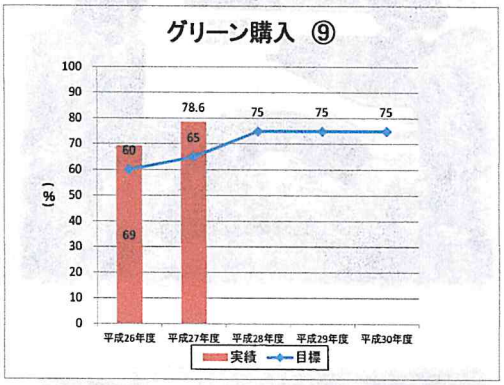
◇新入社員研修による個人意識の向上を計る。(評価△)人員の入れ替わりによる意識の低下も原因のひとつと考えられる為、研修等で個々の意識向上に努める

◆備品・事務用品等のグリーン商品購入の推進

◇事務用品のグリーン商品購入は、目標数値を設定し、定期的な発注を行い、無駄の無い購入を徹底する。(評価○)次年度⇒継続的に行なう

評価基準(○‥良く取り組んでいる　△‥取り組んでいる　×‥全く取り組んでいない)





・使用済切手‥熊本善意銀行へ預託

教育・研修実施計画

教育・研修事項	対象グループ	具体的内容	計画時期	実施日
車両運行前点検等研修会	一般廃棄物収運 産廃廃棄物収運	1.点検の重要ポイント 2.故障時の対処方法	11月	1月7日
エコドライブ研修会	一般廃棄物収運 産廃廃棄物収運	ディーラー指導のもとに行った。	10月	11月21日
タイヤ点検講習会	一般廃棄物収運 産廃廃棄物収運	安全及び環境に配慮したタイヤ点検をタイヤメーカーより指導いただいた。	6月	6月24日
重機運転・メンテナンス研修会 リフトメンテナンス研修会 消防訓練	中間処理グループ	環境及び安全運転上の注意事項と安全衛生法について	8月	5/7及び7/1
		緊急事態での対応についての通報・初期消火・避難訓練	10月	2月20日
廃棄物適正処理講習会	全グループ	県廃棄物対策課作成の「廃棄物の処理と方法」+「指導要綱」をテキストに行った。	4.6.8.2月	4月21日
		1.処分と収集運搬の許可基準		6月5日
		2.排出事業者責任について		6月27日
		3.契約書について		7月11日
		4.県・環境省からの通達事項の再確認		10月17日
		5.リサイクル率向上にいて		1月9日

地域環境コミュニケーション１

◆バイオディーゼル燃料の普及

◇バイオディーゼル燃料を使用した菜の花パトロール車で近隣小学校のこども達を守る地域防犯パトロールを毎日朝夕２回継続している。（2008 年からの継続活動）

◇地域の各行事等にて廃油の回収ボックスを設置し、集めて協力体制がさらに拡大した。

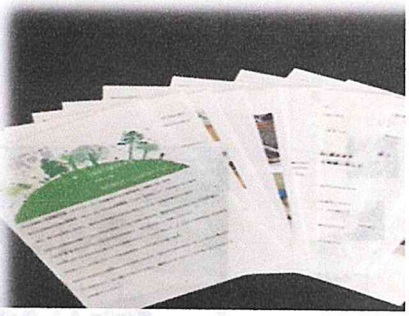
◆近隣小学校と地域に地域通過の寄贈

近隣小学校に対して、セーフティボランティア及びコミュニティスクールの推進活動に継続参加しています。また、その活動で得た地域通貨「水水」を近隣の護川小学校と杉水地区の補修費用や備品購入費用として寄付させていただきました。

地域環境コミュニケーション 2

◆近隣小学校との環境学習を実施しました。(2010 年からの継続活動)

今年も、護川小学校 4 年生の皆さんと一緒に環境学習を行ないました。



クイズに当たったら、
プレゼントもあります！

最後は、グリロジの
ゆるキャラ
リサイケロくんと‥♥

環境関連法規・条例・要綱及び全ての要求事項を遵守

◆環境関連法規

・平成 27 年 4 月から「フロン排出抑制法」が施行となった。
・該当する廃掃法、水質汚濁防止法、騒音規制法、振動規制法、悪臭防止法、土壌汚染対策法、消防法に違反及び訴訟はなかった。

◆条　例

違反及び訴訟はなかった。

◆要　綱

違反及び訴訟はなかった。

◆要求事項（クレーム）

重大なクレーム等はなかった。

代表者による全体評価と見直し

◆環境方針

変更ありません。

◆環境マネジメントシステム

次年度は、環境管理責任者と委員会メンバーのリーダーシップで更なる全員参加型の効果的な活動を行う。

◆環境目標・活動計画及び取組結果の実績と評価

環境目標の実績と結果及び環境活動計画は、環境活動レポートの記載の通り。
平成 28 年度についても、同様の環境活動計画とします。

◆次年度の見直し

1. ガラス・陶磁器屑などの最終処分までの輸送を 4t 車から大型車両に変更し、軽油の使用量を削減します。
2. 収集運搬車両の新車入替えにより、バイオディーゼル燃料が使用できる車両がだんだんと少なくなっている状況です。これについては、前年度より課題化されており未解決である為、本年度に方向性を明確にする必要があります。
3. 事務所の廃棄物排出量については、分別が徹底できていない状況です。
一人当たりの排出量が増加している状況を改善する必要があります。また、研修や日々の啓発も必要です。
4. 安定型品目を中心に産業廃棄物の取扱量の増加が見込めます。機械設備等や収集運搬及び委託先への輸送のさらなる効率化が必要です。

◆その他

1. 平成 29 年度に施設の増設を計画しています。上記の課題が解決できるよう、環境委員会の意見も反映した施設づくりをします。また、次年度も関係法令の徹底遵守の為、グループごとに勉強会・研修・訓練を計画し、実施します。
2. 産廃優良認定業者として、社会的責任の重大性を認識し、地球環境への配慮を常に念頭に置きながら、適正処理の徹底、コンプライアンスの確立に向け、より一層努力して参ります。

平成 28 年 10 月 1 日
㈱グリーンロジスティクス
代表取締役　岩崎　浩